

公益社団法人 私立大学情報教育協会
サイバー・キャンパス・コンソーシアム
平成23年度 第1回統計学グループ運営委員会 議事概要

I. 日 時 平成23年4月14日（木）16:30～18:30
場 所 私立大学情報教育協会事務局

II. 出席者 中西、渡辺、各委員、今泉、高橋アドバイザー
(事務局 井端、森下、平田)

III. 検討事項

今回は、学士力の実現に求められるICT活用（授業モデル）について、前回委員会の議論を踏まえた修正版を確認し、主に読みやすくするための編集面での調整を行った。

1. 授業モデル（中間まとめ）

- ① 3つのモデルとも重複している内容が多いので、整理して3つのモデルの特徴を出すことにし、特に最初の「1. 到達度として学生が身につける能力」「2. 授業デザイン」「2. 1授業のねらい」については内容が完結にわかりやすいよう修正することにした。
 - ② 到達度の評価方法を入れておく必要があるので、各授業モデルの最後「3. 授業運営上の問題及び課題」に入れることにした。
- その他、各モデルごとに以下のように整理、調整することにした。

<到達目標1について>

- ・「2. 2授業計画」は外して、その部分には「2. 授業デザイン」の2行目後半からの内容を入れる。
- ・「2. 授業デザイン」の後半は、初年次だけでなく、どの学年でも実施していく必要があることを入れておく。
- ・「3. 課題及び問題」の授業支援システムの必要性の前に、上級学年がアドバイスする支援体制について、大学の仕組みづくりの必要性を入れる。
- ・図1「科学の道具箱」は、データライブラリの事例として到達目標2のモデルに入れる。」

<到達目標2について>

- ・「1. 到達度として学生が身につける能力」の冒頭は基礎スキルは社会人になっても必要であることを短く説明する。
- ・「2. 3授業シナリオ」にあるICTの活用方法は、「2. 5の学習環境」に入れるなど、整理する。

- ・「2. 1 授業のねらい」には、背景を入れ、ねらいに書かれている後半を「2. 授業デザイン」に入れる。

<到達目標3について>

- ・「1. 身に付ける能力」は社会での問題解決の場を想定した学習を強調して短くする。
- ・「2. 授業デザイン」の冒頭は「2. 1 授業のねらい」にし、「2. 授業デザイン」の下にある文章を「2. 2 授業計画」にする。
- ・「2. 2 授業計画及び授業シナリオ」にある①～⑤の詳細は、「2. 2. 1 授業計画（授業シナリオ）」にあるICTを用いた授業シナリオとして移動してまとめる。
- ・「3. 課題及び問題」として、以下のような内容を追加する。
 - 統計学と他分野との連携のためのカリキュラム、教育プログラムの設計の必要性
具体的な提案を行う。
 - 他分野との連携が必要なため、その仕組みをどうするのかを描く。
(学内、大学間、社会)
 - 学び直しのプラットフォームなど支援の仕組み
ただし、支援の仕組みは必要であるが、統計以外の教員が支援センターなどに頼るだけでなく、個々の教員が意識していく必要がある。
 - 到達度の評価方法では、統計学の授業以外に、社会人として必要な能力として、
数量的スキルの評価を行うという方向から提案する。

2. 今後のスケジュール

- 4月21日までに修正版提出
- 4月25日までに意見交換の上、完成
- 5月中旬からアンケート調査

3. 次回委員会

- 6月16日（木）17：00から開催する。